

新型コロナウイルス感染症がリアルワールドのがん医療に及ぼした影響：がん登録を基盤とした調査

1. 研究の対象

2019年1月～2020年12月に当院でがんに関する診療を受けられた方

2. 研究目的・方法

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) がリアルワールドのがん医療に及ぼした影響を、がん登録を基盤とした調査により示す。

大阪府の新規がん患者の大部分をカバーするがん診療連携拠点病院等の院内がん登録に基づく調査を行い、診療情報データの種類であるDPCの情報を加えることで、COVID-19がリアルワールドのがん医療に及ぼした影響を示す。COVID-19のみならず、今後発生する新たな感染症に対して、がん医療提供体制のあり方を考えるうえでの科学的根拠になると期待できる。

がん診療連携拠点病院等の各医療機関で院内がん登録データとDPCデータから対象症例の抽出・匿名化・暗号化したものを大阪国際がんセンターに提出する。大阪国際がんセンター（がん対策センター）では受け取ったデータを復号化し、連番を介して両データを連結したデータベースを整備して、評価項目等を算出する。

研究期間：2021年7月5日～2030年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

「院内がん登録全国集計」のために国立がん研究センターに提出した院内がん登録データの複製（2019年、2020年診断症例）と厚生労働省の実施する「DPC導入の影響評価に係る調査」に定期的に提出しているデータの複製（2018年10月から2021年6月の様式1と入院EF統合ファイル、外来EF統合ファイル）から対象症例の抽出・匿名化・暗号化したもの。

情報：がん発生部位、がんステージ、治療内容 等

4. 外部への試料・情報の提供

専用ソフトウェアを使い、調査対象がん患者のデータを抽出して、匿名化・暗号化して保存した可搬媒体を、追跡可能な配送方法で送付する。

対応表は医療情報部の研究責任者が保管・管理する。

5. 研究組織

研究機関

大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター
がん対策センター所長 宮代 勲

情報の提供のみを行う機関

大阪大学医学部附属病院 医療情報部 武田 理宏 ほか

大阪府がん診療連携協議会を構成するがん診療連携拠点病院等 67 機関

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先：武田 理宏（本研究における当院の研究責任者）

〒565-0871

吹田市山田丘 2-12 大阪大学医学部附属病院 医療情報部

Tel: 06-6879-5900

研究代表者：大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター・宮代 勲